

# 常任委員会 レポート

総務厚生委員会  
委員長 山田 能新  
副委員長 小山田 輔雄  
委員 小久保 堅太  
委員 山崎 一洋  
近藤 芳人 田島 輝美 山内 政夫  
吉住 威三美

産業建設文教委員会  
委員長 井元 宏三  
副委員長 綾香 良一  
委員 池田 稔  
委員 松尾 巳美  
神田 全記 竹山 俊郎 辻 賢治  
松本 正治 山本 芳久



委員長報告全文はこちらをご覧ください。



## 6月定例会 ここに注目!

令和3年6月定例会（6月7日～18日）

### 地域活性化起業人活用事業

## 制度を有効活用し、今後の観光マーケティングに期待!

### 委員会での主な議論

- Q 民間企業からの人材派遣によりDMOに登録された平戸観光協会の組織体制を強化することが目的であるのか。
- A 平戸観光協会に「マネジメント能力」「マーケティング能力」などに長けた人材を3大都市圏（東京、名古屋、大阪）の民間企業から1名の募集を行い、3年間の派遣期間中に人材育成により組織強化する。
- Q この事業で優秀な人材が派遣されても、平戸観光協会の人材が育たないと意味がないのではないか。
- A マネジメント能力、現状分析の仕方、ノウハウを育成することも目標に掲げており、派遣後の進捗状況の管理や人材育成は、観光協会とも意見交換をしながら職員一人ひとりがスキルアップできるように取り組んでいきたい。

## 観光地域づくり法人(DMO)登録決定! 観光拠点の魅力強化へ!

### DMOとは?

DMOとは、観光地域づくりを行う舵取り役となる法人のこと。

平戸市では、平戸観光協会が地域DMOとして令和3年3月31日に登録された。

### DMOの目的・役割は?

観光地域の魅力を高めるため様々な組織が一体となり地域が主体となって観光客を誘致することで地域経済の活性化を図る。観光地域のプロデューサー的な働きと、自治体・事業者とのパイプ役を担う。

### DMOに登録されたメリットは?

観光庁を始めとした国からの財政支援が受けられることや関係省庁による各種支援メニューの情報提供、総合的なアドバイス等を受けることができる。



大バエ灯台



平戸城(乾櫓)



たびら昆虫自然園



中江ノ島

### 新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金事業

## 新型コロナの長期化に伴い、困窮世帯に支援金を支給!

### 委員会での主な議論

- Q 制度の内容、支援金の支給対象者はどのようになっているのか。
- A この制度は、新型コロナウイルス感染症の長期化による影響に伴い社会福祉協議会から緊急小口資金、総合支援資金の貸付を受け限度額に達している世帯や、再貸付において不承認となった困窮世帯への支援策である。支給月額は単身世帯6万円、2人世帯8万円、3人以上世帯10万円を申請月から3か月間支給し、対象となる世帯数は18世帯と見込んでいる。

### 地域おこし協力隊導入事業

Q 予算が減額となった理由は何か。現在雇用している隊員は何名か。

A 令和2年度は現員4名と新規雇用1名の計5名分の予算を計上していた。新規雇用として和牛ヘルパーの募集を行ったが応募が無かったこと、年度途中で隊員が任期満了となったことなどから減額となった。令和3年度も5名分の予算を確保し、現在、2名の雇用と1名を内定しており、更に2名を雇用していきたい。

Q コロナ禍で事業が実施できないものや縮小などがある中、この事業は実施できるものであることから積極的に取り組んでもらいたい。

A 他課との協議も必要であるが、担当課においても活用ができないか検討していきたい。

### 工事請負契約の締結について (大島村ごみ焼却施設解体工事)

Q 施設の解体に伴うがれき等の処分はどのようにするのか。

A 当該施設がごみ焼却施設であり一般の施設とは違う特別な施設であることから、がれき、残渣は特別管理産業廃棄物となり、厳重な取り扱いのもと請け負った業者が責任を持って処分を

することになっている。また、処分は法に基づき適正な管理をしようとして島外へ搬出されマフレスト等で管理し報告するようになっていく。

委員会の指摘  
解体工事の実施にあたっては十分に管理を行い落ち度が無いよう対応すること。

### 令和2年度平戸市駐車場事業 特別会計補正予算

Q 駐車場(平戸交流広場駐車場)の管理はどのように行っているのか。管理者がなぜ必要か。

A 管理は平戸観光協会へ業務委託を行っている。管理者は、トラブル発生時や、駐車券を紛失した方などへの対応、市への収入報告などの対応のため必要である。

Q 今回赤字になった原因は有料台数が減っているのが原因ではないのか。料金を高く見直してみているのか。

A 平成27年より今のような料金体系になった。これまで黒字運営が続いてきたが、今回初めて一般会計より繰入を行った。今後検討を行っていく。

Q 駐車場の管理については、コロナ禍で観光客が減少し収入も減少しているが、駐車場を無料開放することや管理人の必要性についても検討する必要があるのではないか。

A 無料開放については、今年に入り4月、5月の利用者が回復傾向にあったことから、利用状況を注視している。これまで商店街、観光協会、関係機関で協議し、2時間無料として運用してきたが、コロナ禍での運用について、有料車両の台数を増やすことができるか今後検討していきたい。